特集1　冬到来　火の用心

あなたです　火事を出すのも　防ぐのも

最近、アフリカのケニアから百四十万年前の人類の遺跡が発見されました。その遺跡には火を使った跡があるそうです。つまり、人類は百四十万年も、火と暮らしてきたわけです。

さて、現代。日本の黒埼町。平和です。でも、この日本のどこかで、八分十四秒に一回の割合で火災が発生し、毎日二十八人が亡くなったり、傷ついたりしています。（昭和五十五年度版消防白書）

冬。日一日と肌寒さを感じる今日このごろです。家庭ではストーブ、こたつが大活躍しています。火。今号は火災予防を特集してみました。

十年間の被害は四億円

黒埼町

本町は昔から火事の多い所といわれ、明治時代だけでも三回の大火に大野地区が襲われました。この後も火災は人々を苦しめ、自治体消防組織、黒埼村消防団が発足したのは戦後の昭和二十二年でした。

この黒埼村消防団は、それまでの部落単位の消防組をまとめたものです。全村を十二分団として一世帯から一名の男子を募りました。

そして現在でも各地区で活動を続けています。

昭和四十七年に黒埼村消防署が設置され、ようやく本町も火災に対する備えが万全となりました。

この設置には、前年の大野新町の大火で大きな被害（焼損三十九棟り災者百五十八人）に見舞われたことが契機となっています。

その他戦後の大火は次のとおりです。

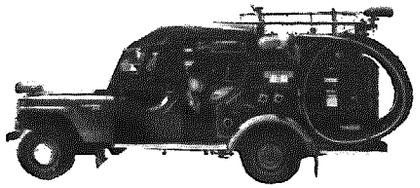
昭和31年　大野二之町
　焼損棟数　12　り災者数　28
昭和36年　大野新町
　焼損棟数　22　り災者数　43
昭和42年　善久
　焼損棟数　9　り災者数　34

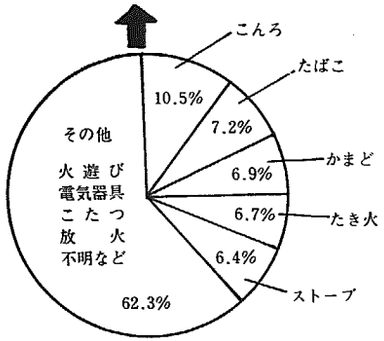
さらに、この十年間（昭和46年～55年）の総り災者数は四百二十八名、うち死亡二名、総被害額三億九千七百万円です。詳しくは左ページの資料一を見てください。

火災はすべてを失わせ、ときには生命すら奪ってしまいます。

◀昭和四十六年四月の新町大火
背景に黒埼中の校舎が見えます

○「火事だ！」と大声でまわりに知らす。
○119番は、あわてずハッキリ通報。
○落ちついて状況を判断しよう。
○初期消火　無理なら避難する。
○子供や老人は先に逃がす。





新潟県の出火原因（昭和55年度）

寺地団地まで九分

黒埼町消防署

消防署の仕事は、消火活動と予防活動です。

現在、消防自動車は普通型が二台（他、大野分団に一台）、水槽付が一台あります。今年の出動は六回。幸いなことに、五月三十一日から一度も出動していません。

消防署はもちろん二十四時間体制です。三十三名の職員のうち、常時十名から二十名が置内で、いざというときの為に待機しています。

「火災発生！」の通報がありますと、銀色の防火着に身を包み出動。

町内でもっとも遠い寺地団地まで九分、木場、板井、黒鳥は六、七分です。また、連絡を受けた他の署員、各消防団が駆けつけます。

消火。

しかし、被害がない火災はありません。たとえ、死傷者もなく保険が物資を保証しても「不幸中の幸い」なのです。

そこで、重要なのは予防活動。

春、冬（今年は十一月二十六日から十二月二日）二回の火災予防週間では、ポスター、チラシなどで火災予防を訴えます。また、十月十九日には、安倍北夫氏（東京外国語大学教授）を迎えて防災講演を行いました。（詳細は広報一九六号）

さらに、主な活動は次のとおりです。

一、消防訓練と消防自動車、機材の点検と整備

昭和五十四年には、新潟県の消防大会で自動車ポンプ操法で優勝しました。

二、危険物の取り締まり

国道8号線沿いにはたくさんのガソリンスタンドがあります。引火したら大変です。

三、予防査察

保育所、学校、体育館、町内事業所など建物の避難経路、誘導燈の点検を年一回しています。

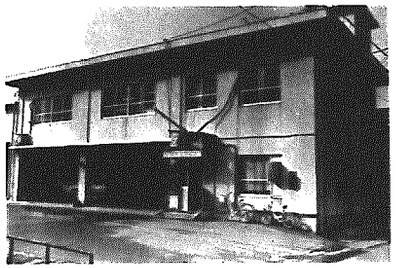
四、避難訓練の指導

保育所、小、中学校で年一回子供たちの避難訓練を実施しています。

五、救急自動車

ピーポー、ピーポー、ピーポー、昭和五十五年の出動は三百九十八回でした。

このように、消防署はみなさんの安全な生活を守ることが使命です。



▶黒埼町消防署

資料1　黒埼町の火災状況

（千円）

年度	出火件数	り災人員	死者	傷者	損害額
46	6	180	0	5	185,178
47	6	5	0	0	1,308
48	9	4	0	0	6,064
49	6	12	0	1	35,634
50	4	22	0	0	6,733
51	13	74	0	1	60,253
52	8	23	0	2	28,074
53	11	21	0	1	19,515
54	12	75	0	3	43,637
55	9	12	2	0	10,328
計	84	428	2	13	396,724

資料2

黒埼町の消防勢力 '81

昭和五十六年度一般会計予算
　五千四百二十万六千円

消防署職員　三十三名
消防団団員（実動）　三百五十一名
消防自動車　四台
消防ポンプ　十七台
ポンプ積載車　六台
消火栓　二百二十七本
火の見やぐら　二十五塔

※来年度は、ポンプ積載車が十六台、消防団団員は二百五十五名になります。